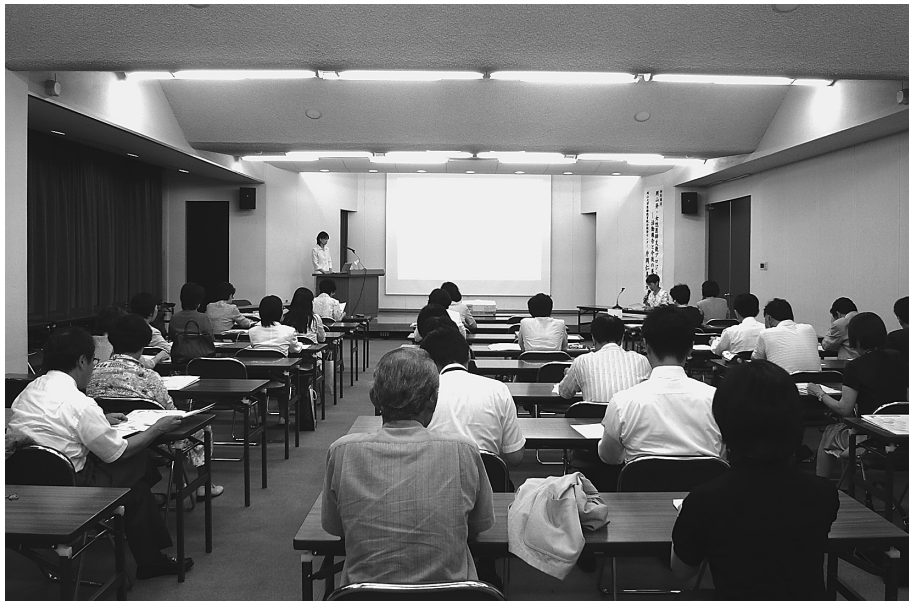


岡山県医師会女医部会報

第6号

第2回岡山県医師会女医部会総会



日 時：平成20年7月27日（日）14：00～16：00

場 所：岡山衛生会館 5階 中ホール

次 第

1. 開 会
岡山県医師会女医部会副部長 清 水 順 子
2. 挨 拶
岡山県医師会理事 大 本 佐和子
岡山県医師会女医部会部長 中 島 道 子
3. 報告事項
①19年度事業報告 岡山県医師会女医部会委員 小 山 武 子

4. 協議事項

②20年度事業計画

岡山県医師会女医部会部会長 中 島 道 子

5. 発 表

「岡山県医師会女医部会会員の医師会活動についてのアンケート」

岡山県医師会女医部会副部会長 神 崎 寛 子

6. 特別講演

「岡山発・女性医師支援プロジェクトー活動報告と今後の展望」

岡山大学医療教育統合開発センター 片 岡 仁 美 先生

7. 質疑応答

8. 閉会挨拶

岡山県医師会女医部会副部会長 清 水 順 子

9. 閉 会

岡山県医師会女医部会総会 挨拶

岡山県医師会女医部会 担当理事 大 本 佐和子

先日、中島先生と第4回男女共同参画フォーラムに出席して参りました。このフォーラムも、以前は女性ばかりでしたが、今回はかなり男性の参加が目立っておりました。やはり「男女共同参画」というからには男性が居ないと意味がないです。今後は、我々女医部会もそういうつもりで頑張っていきたいと思えます。

さて、鳥根医大の卒業生の約5割が女性で、山口大学医学部の入学者の約5割が女性だそうです。また、国家試験の合格者の内、3分の1が女性とありますが、今後5割に達するのは目に見えています。ですから、女性医師を育てるためにどれだけの税金がかかっているか、ということをよく考えて、学生が医師になる前に成績が単に偏差値が高いからというだけで医学部を目指さないように高校から教育していただきたいと思えます。そして、医学部に入学したからには、多少は休みながらも医師を続けてほしいと思えます。それを支援するための女医部会だと思っておりますので、県医師会の担当理事として全面的にそういうことを発言していきたいです。女性が立場を主張する事は、なかなか難しい事もありますが、今がチャンスだと思います。医師不足等で医療崩壊と騒いでいる時こそ、女性医師が働きやすい環境を作り上げていくよいチャンスだと思っておりますので、みなさん頑張りましょう。

岡山県医師会女医部会 部会長 中島道子

本日は、「地域医療崩壊阻止のための決起大会」と日程が重なってしまいましたが、皆様ご参加いただき大変ありがとうございます。

岡山県医師会女医部会の第2回総会を開催するに当たりご挨拶申し上げます。

平成14年に小山武子先生を部会長として発足以来、女性医師の勤務環境、保育・育児に関するアンケートなどを実施し、現状をみて参りました。

また、医学生・女性医師と岡山県医師会女医部会との懇談会を開催し、卒後研修の動向、研修後の進路、研究、結婚・出産・育児について意見を交換し医業を続行しやすく、また、できるだけ中断しないよう先輩女性医師として意見を述べさせていただきました。

近年、医師不足・医師の地域偏在・勤務医の過重労働などが、問題視されて参りました。

平成20年度は医師国家試験合格者のうち女性が34%を超えました。女性医師が研修医・専門医の勉強、研究・教育に携わる過程で、多くの場合結婚・妊娠・出産・育児・介護が避けられないのが現状と考えます。女性医師の30歳代での就業率の低下が現実問題としてみられます。

再就業にはかなりのエネルギーを要することが多いと思われまます。できるだけ離職してしまわないよう、一時期は、短時間勤務やワークシェアリング、当直免除などができるような環境整備も必要と思います。医療崩壊をくいとめるためにも、女性医師が医業を続けやすいようにワーク・ライフ・バランスの改善を図り、医師全体の働き方を考え直し、女性医師が働きやすい環境が、男性医師にも働きやすい環境となるよう活動していきたいと思ひます。

日本医師会の医師再就業支援事業として日本医師会女性医師バンクが、平成19年1月に開設されました。平成20年6月までの1年6ヶ月の間に232名の求職者があり、77件の就業成立と8件の再研修紹介が成立したと報告がありました。岡山県医師会ドクターバンクの活性化を目指し、女性医師の登録を積極的に受けられるよう女医部会として活動したいと思ひます。

新医師臨床研修制度により臨床・研究の方法も多様化しました。再研修の要望もあります。今後、大学病院など教育機関とも連携していくことが必要と思ひます。

皆様と女性医師の声を医療界・地域社会に発信していきたいと思ひます。

どうぞよろしくお願ひいたします。

平成19年度 事業報告

(1) 第1回岡山県医師会女医部会委員会及び総会準備会

平成19年6月16日(土)午後2時30分から岡山衛生会館・役員会議室で開催した。

①総会, ②規約, ③医学生・研修医との懇談会, ④会報について話し合った。

(2) 第3回男女共同参画フォーラム

平成19年7月28日(土)神奈川で開催され,女医部会より小山部会長,中島副部会長,県医師会より大本理事が出席した。日本医師会から医師再就業支援事業報告,男女共同参画委員会から活動報告があった。ラウンドテーブルディスカッション(テーマ「女性医師の勤務支援を巡って」)が行われた。

(3) 第1回岡山県医師会女医部会総会

平成19年7月29日(日)午後2時から岡山衛生会館 中ホールで開催した。県医師会 末長会長,女医部会 小山部会長の挨拶の後,経過報告(小山部会長),協議〔①規約改訂,②19年度事業計画〕(小山部会長),「女性医師の勤務環境に関するアンケート」(小山部会長),「県医師会女性会員及び未入会の女性医師の保育,育児に関するアンケート」(中島副部会長)の結果報告があった。

総会終了後,国立病院機構大阪医療センター副院長 山崎麻美先生が「女性医師勤務環境改善プロジェクトの取り組み」について講演された。

(4) 第3回女子医学生・女性医師と岡山県医師会女医部会との懇談会

平成19年10月13日(土)午後2時30分から岡山衛生会館 第1・2会議室で開催した。岡山中央病院副院長 金重恵美子先生が「生涯いかそう あなたの才能とキャリア」について講演された。講演後に活発な意見交換が行われた。

(5) 第2回岡山県医師会女医部会委員会

平成19年12月8日(土)午後1時45分から岡山衛生会館・小会議室で開催した。

①女子医学生・女性医師と岡山県医師会女医部会との懇談会, ②会報, ③役員改選, ④平成20年度事業計画案について話し合った。

平成20年度 事業計画

- (1) 女性医師相互の研鑽, 親睦, 社会的地位の向上
 - ・懇親の場を設け, 親睦を図る。
 - ・医療活動をすることで社会に貢献する。

- (2) 女性医師による地域医療の推進と社会活動の活性化
 - ・学校医・園医・嘱託医・産業医として活動を進める。
 - ・医師会役員等への参加を薦める。

- (3) 勤務医部会との連携と発言力の強化
 - ・勤務医の就労環境について, 勤務医部会および岡山県病院協会とも連携して調査・改善を図る。

- (4) 女性医師バンクの活用
 - ・岡山県医師会ドクターバンクを整備する。(女性医師コーナー作成など)
 - ・未就業医師の登録を促すための働きかけについて検討する。
(県医師会員の協力を仰ぎドクターバンクに紹介していただく。)

- (5) 女医部会委員会, 総会の開催
 - ・平成20年5月24日(土) 第1回委員会
 - ・平成20年7月27日(日) 第2回総会
 - ・平成20年12月13日(土) 第2回委員会予定

- (6) 医学生・女性医師との懇談会の開催を推進
 - ・平成20年9月23日(火・祝日)
 - ・MUSCAT Meeting Specialを岡山県医師会が後援
 - ・平成20年11月8日(土)

- (7) 女医部会会報の発行
 - ・第5号 平成20年7月10日発行
 - ・第6号 平成20年12月発行予定

「岡山県医師会女医部会会員の医師会活動についてのアンケート」

岡山県医師会女医部会副部長 神崎 寛子

今年度は女医部会会員の医師会活動について、参加の有無、どのような活動に参加しているか、今後どのように参加しようと考えているかを主な点としてアンケート調査した。アンケートの回答率は22.9% (80/350)、回答者の所属医師会は岡山市が最も多く、ほぼ会員数に比例した件数であった。回答者の年齢分布は50歳代をピークに40～60歳代が85%を占める。勤務医と開業医の割合は1:2であった。



医師会活動への参加割合は47.5%で【表1】、その内容は学校医・園医・嘱託医 (42.7%)、医師会役員 (20.0%)、委員会委員 (16.0%) が大半を占める【表2】。医師会活動に参加していない会員で、参加したいができないと回答した件数は67.5%であり、その理由として仕事に加えて家事・育児・介護等女性特有の理由で時間が無いという回答が7割を占めた【表3】。今後の医師会活動について、7割が女性医師が参加したほうが良いと思っており【表4】、参加するとすれば、学校医・園医・嘱託医、産業医、講演会の講師など地域医療活動への参加希望が多く、ついで医師会役員、委員会委員など医師会活動そのものの希望が多くなっている【表5】。

岡山県医師会女医部会の今後については女性医師の就業・就業続行への支援に関する活動への期待が多かったが、女性医師の社会活動の活性化や社会的地位の向上に関わってほしいという意見もかなりの割合を占めていた。

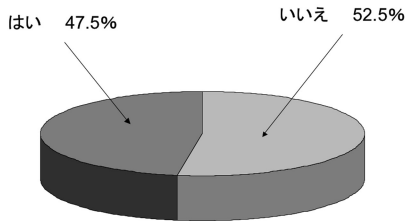
回答者中約半数が医師会活動に参加しているが、これは会員数の一割にしか満たない。1人でも多くの会員に女医部会、さらには医師会活動を知ってもらうための広報活動や活動への参加勧誘を行っていくべきと考える。医師会への参加は女性医師という特殊な立場ではなく医師として地域医療と関わっていくことが大切だと考える。

女性医師の就業に関する事業について行政の参加もあり一定の方向が示された今こそ、女性医師の社会活動の活性化や社会的地位の向上に関わっていくべきだと思われる。また、女性医師の就業に関する事業がマスコミで注目され、労働条件が改善されようとしている今こそ、このことが女性医師のためだけで終わらず、医師全体の就労環境の改善につながることに一助に女医部会の活動がなればよいと考える。

「女性医師が働きやすい環境こそ医師全体が働きやすい環境である」が新しいスローガンになる日が来ればよいと思っている。

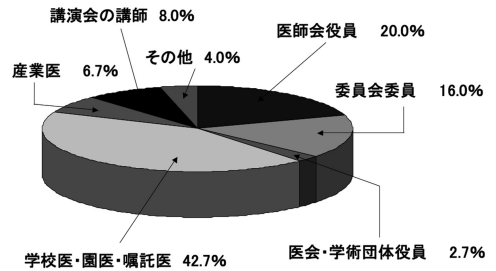
〔表1〕

医師会活動(役員・委員等)に参加していますか？



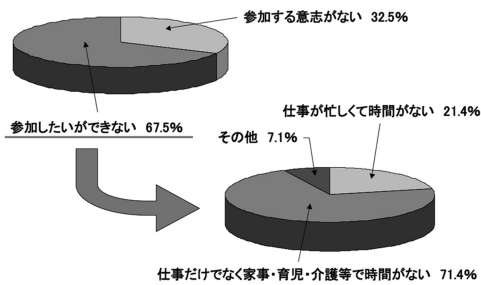
〔表2〕

どのような活動に参加していますか？(複数回答)



〔表3〕

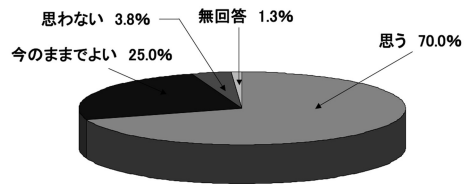
医師会活動に参加しない理由



〔表4〕

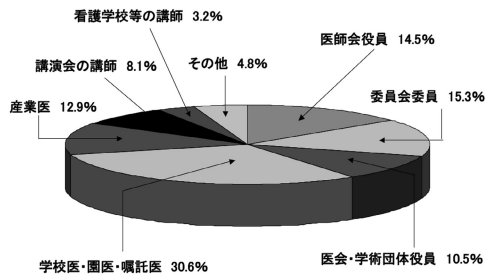
これからの医師会活動について

女性医師がもっと参加したほうが良いと思うか？



〔表5〕

参加するとすれば、どの分野を望むか(複数回答)



特別講演

「岡山発・女性医師支援プロジェクトー活動報告と今後の展望」

岡山大学医療教育統合開発センター 片岡仁美先生

近年医師不足と地域・診療科による医師の偏在が社会的にも大きな問題となっています。産婦人科、小児科領域などは、特に医師不足が顕著かつ女性の比率の高い科であり、女性医師支援が特に注目されてきました。文部科学省では、「社会的ニーズに対応した質の高い医療人養成推進プログラム(医療人GP)」として、社会のニーズに合ったテーマを提示していますが、平成19年度のテーマは「女性医師・看護師の離職防止・復職支援」であり、岡山大学の取組は医療人GPの選定を受けて平成19年9月よりスタートしました。



我が国の女性の年齢階級別労働力人口比率の推移をグラフ化すると、女性は30代で労働人口が減少し、「M字カーブ」を描くことが知られています。この傾向は女性医師にも認められ、一般人口と比べれば離職率は低いもののやはり、卒後5-15年の10年間に女性労働人口が減少することが報告されています。東京医科大学・川崎医科大学で施行されたアンケートでは、短期間の休職を含めば70%以上の女性医師が休職を経験し、復職者のうち常勤医として復職するのは30%程度と報告されています。岡山大学でも、平成15年卒業生以降女性医師が3割を越えるようになりました。女性医師が働き続けることのできる環境と、適切なサポート体制を整えることは急務かつ極めて重要な課題といえます。

岡山大学の医療人GPの取り組み「女性を生かすキャリア支援計画」は、最適助言者紹介システム(岡山MUSCAT: MDs and Undergraduates Support and Care Attractive Women's Team)を女性医師の臨床現場定着支援の柱とし、家庭と両立可能な復職支援コース(Muscat WILL: Women's Interactive Lifelong Learning and working)を女性医師の復帰支援の柱とするプランです。さらに、その2本柱を支えるのが職場の男性・家族の理解と協力(サポータークラブ)です。

最適助言者紹介システム(岡山MUSCAT)は、最適助言者を紹介するシステムによって臨床現場定着をサポートします。岡山MUSCATでは、「後輩のサポートに協力したい・先輩のアドバイスを聞きたい」という女性医師や医学生をメンバーとして募集し、相談内容に答えるために最適な先輩を参加者の中から探して紹介します。これらの一連の流れを全てオンラインで行えるように岡山MUSCAT WEBを立ち上げました。MUSCAT WEBでは先輩紹介のほか、復職支援プログラムの情報提供、

オンライン上で多くの参加者からオープンな相談ができる知恵袋システムなど多面的なサポートを行うことが可能であり、MUSCAT WEBに参加することで、「互いに支えあい働き続ける文化」が生まれることが期待されます。さらに、実際に顔が見える距離で先輩・後輩のサポートシステムを構築するため、2か月に1回開催するMUSCATミーティングでは先輩女性医師、サポータークラブ医師から学生・若手医師へのメッセージを伝え、ディスカッションを行っています。年1回のMUSCATシンポジウムは学内だけでなく広く参加者を募り、活動を地域へと開かれたものとしています。このような機会によって、先輩・後輩のネットワークが広がっているのを実感しています。

平成19年度文部科学省 医療人GP採択
「女性を生かすキャリア支援計画」

岡山MUSCAT オンラインシステム
(MDs and Undergraduates Support and Care Attractive Women's Team)

岡山医療圏対象 医療人として働く女性のサポートサイト!

教えて!先輩たちの「知識と経験」

ADVICE
知恵袋

気になることをみんなで
知恵を出し合っ解決!

MATCHING
先輩紹介

あなたに最適な
アドバイザーをマッチング

SUPPORT
復職支援

家事と仕事の
両立をサポート!

OTHER
お役立ち情報

日記・メッセージBOX
スケジュールなども充実

仕事や家庭のことを
気軽に相談できる!

先輩たちの「経験」と「知識」を伝授! 女性医師・医学生のためのサポートネットワーク

岡山MUSCAT WEB

安心・安全のセキュリティ

- ☑ 医師・医学生のための会員制サイトです。
- ☑ 情報漏えい防止にも配慮しています。

岡山MUSCAT (MDs and Undergraduates Support and Care Attractive Women's Team) オンラインシステム

岡山大学病院 キャリアセンター ☎ 086-235-6597 ✉ muscat@md.okayama-u.ac.jp

家庭と両立可能な復職支援コース (muscat WILL) はトレーニングコースと柔軟な働き方を提案するワーキングコースの二本立てとなっています。トレーニングコースでは、高機能シミュレータを用いた危機管理シミュレーション、麻酔技能等のトレーニングによって確実な現場復帰の準備を行います。ワーキングコースには、Hop (時短)、Step (週1-3勤務)、Jump (週4) と働き方に合わせた3つのコースがあり、4月から現在までに14名の医師が復職されました。また、大学病院のみならず、岡山医療圏の病院・医療機関に協力プログラムを募集し、様々な復職・教育プログラムを提案頂いています。これらの医療機関は「muscat WILL協力医療機関」としてホームページ上で紹介し、認定証をお贈りしています。

現在、岡山県下では岡山県医師会、岡山県病院協会、岡山県保健福祉部医療対策協議会などが女性医師支援に取り組んでおられます。岡山県医師会では女医部会を組織し、女性医師バンク、学生との懇談会などの活動を行い、岡山県病院協会では女性医師求人情報ホームページを通じて積極的な活動を行われています。岡山大学では、これらの県下の女性医師支援活動と協力し、活動をさらに発展していきたいと考えております。また、現在集計中の岡山医療圏女性医師アンケートの中間解析では、女性医師支援で取り組んでほしいこととして、約70%の回答者が「復職しやすい職場づくり」を、約40%が「保育所の充実、病児保育」を挙げていることを報告し、今後のプロジェクトの柱にしていきたいと締めくくりました。

女性が働きやすい環境をつくることは男性も働きやすい、すなわち皆が働きやすい環境をつくることにつながると考えます。今後ともさらなる御意見・御協力の程何とぞ宜しくお願い致します。